

# 信州大学農学部西駒演習林におけるシデムシ群集の垂直分布

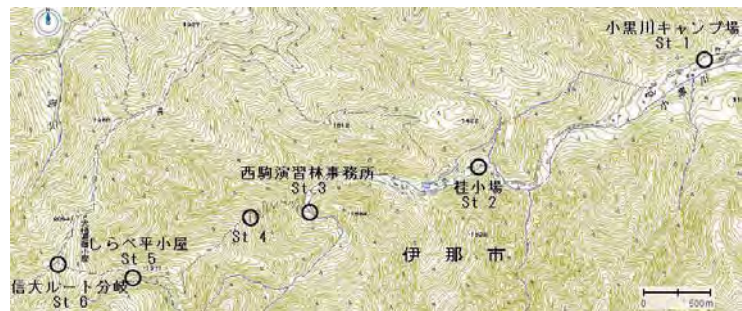
黒崎孝文・古屋諒・森谷浩之・中村寛志(信州大学農学部 AFC)

## 【はじめに】

シデムシ類は、コウチュウ目 (Coleoptera) シデムシ科 (Shilpidae) に属する昆虫で、地表性昆虫の中でも動物の死骸を食べる腐食性である。飛翔による長距離移動を頻繁に行わない地表性昆虫では、地理的隔離による種分化が起こりやすく、それぞれの種は特定の環境に依存している。そのため森林管理と地表性昆虫相の比較など、その生息地域の環境を評価する指標生物として用いられている。本研究はシデムシを指標種とした山岳域の環境モニタリングの基礎データとして利用するため、西駒演習林を中心とした地域について、標高別のシデムシ相を調査した。

## 【材料と方法】

長野県伊那市内の萱にある小黒川キャンプ場 (標高 1050m) から信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター西駒ステーション演習林 (以下西駒演習林) の標高 2100m 地点までの



範囲で、標高 200m ごとに全 6ヶ所の調査地点を設けた (上図)。調査期間は 2008 年と 2011 年の 6 月から 10 月にかけて、各年 5 回の調査を実施した。シデムシの捕獲には、プラスチックカップ大 (直径 8.3cm, 深さ 11cm) と小 (直径 8cm, 深さ 8.5cm) を重ねたものをトラップとして、それぞれの調査地点に 5 個ずつ設置した。トラップには誘引用のベイトとして鶏肉を使用した。

## 【結果】

今回の調査でモンシデムシ亜科 8 種、ヒラタシデムシ亜科 5 種、ツヤシデムシ亜科 1 種の 14 種が確認され、2008 年は 447 個体、2011 年は 307 個体が採集された。また長野県レッドデータブックの絶滅危惧 II 類が 2 種 (ビロウドヒラタシデムシ, ベッコウヒラタシデムシ)、準絶滅危惧種が 3 種 (ツノグロモンシデムシ, ヒロオビモンシデムシ, マエモンシデムシ, ヒメモンシデムシ) 確認された。垂直分布は表 1 のようになり、2008 年と 2011 年ともに確認した種を広範囲、高標高, 中標高, 低標高の 4 つの分布型に分類することができた。

西駒演習林における標高別のシデムシ捕獲数 (2008 年)

種名	分布 区分	捕獲数						計
		ST1	ST2	ST3	ST4	ST5	ST6	
ヨツボシモンシデムシ	広範囲	16	29	13	7	1	0	66
ビロウドヒラタシデムシ	広範囲	13	50	9	1	9	0	82
ヒロオビモンシデムシ	広範囲	2	8	20	9	8	1	48
マエモンシデムシ	広範囲	0	1	16	2	5	11	35
ホノヒラタシデムシ	広範囲	1	0	12	8	36	20	77
ヒメクロシデムシ	広範囲	0	0	2	10	16	36	64
ツノグロモンシデムシ	高標高	0	0	0	0	7	13	20
ヒメモンシデムシ	中標高	0	2	3	4	0	0	9
オサシデムシ	中標高	0	0	0	1	0	0	1
オオヒラタシデムシ	低標高	24	0	0	0	0	0	24
クロボシヒラタシデムシ	低標高	7	0	0	0	0	0	7
ベッコウヒラタシデムシ	低標高	2	0	0	0	0	0	2
コクロシデムシ	低標高	7	0	0	0	0	0	7
クロシデムシ	低標高	0	5	0	0	0	0	5
合計		72	95	75	42	82	81	447